

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義をふまえた理念があり、地域との関わり、医療との連携を意識して、共有し実践につなげている。	平成26年度に職員が話し合い、「地域の中で、その人のペースで、その人らしく暮らせるように支援する。医療と連携し、安心して生活ができるように支援する。」という地域密着型サービスをイメージしやすい理念に変更し、玄関や事務室に掲げている。新人職員には先輩の職員が付き、理念や日常業務などの指導を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事(ふれあい広場、餅つき、どんど焼き)に参加したり、清明小学校と交流(運動会、音楽会、交流会)している。外出時に挨拶をかわしたり、学校帰りに手を振ってくれる事もある。	母体である病院が自治会に加入し自治会費を納めている。お祭りの時には神輿が病院敷地内に立ち寄るので見学している。園芸ボランティア、外出介助ボランティアなどの訪問もある。高校の生活福祉科の生徒の実習を受け入れており、近くの小学校のボランティア委員会の児童との交流も継続している。児童と歌やゲームを一緒に楽しんでいる時には普段以上の笑顔が利用者に見られるという。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生を受け入れている。自治会長、民生委員を通じて、相談窓口の紹介等している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、自治会長、民生委員に参加してもらっており、年に何回かは消防署職員にも参加してもらっている。活動報告、評価結果報告し、意見交換しており、サービスの向上に活かしている。	家族、自治会長、民生委員、消防職員、市職員などで構成され原則奇数月に行っている。活動報告、事故報告、人事異動などについて報告し、委員の方々から意見をいただいている。避難訓練時には消防設備会社社員の参加をお願いし訓練について専門的な指導や講評を受けている。利用者の事故報告についてもその後の対応なども含め家族へ説明している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で情報交換している。市へ問い合わせ等しており連携をとっている。介護相談員の来所もある。	運営推進会議開催案内を直接窓口で手渡し参加をお願いしている。事故報告なども市へ出向き報告している。介護相談員2名が定期的に来訪し利用者懇談している。介護認定の更新申請は家族から依頼があれば代行申請をしており、認定調査時には利用者の状況を説明している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、理解が深まるように研修を受けている。センサーマットを使用し、安全に移動が出来るようにしている。玄関はロック式になっているが、外出したい時は一緒に出掛けるようにしている。	ホームは病院敷地内の角地にあり、通院の車や人が玄関前を通るため安全面を考え必要な措置を取っている。転倒防止のため家族へ連絡しセンサーマットを使用している方がいる。定例会で身体拘束についての勉強会をし理解を深めている。日によって、夜、落ち着かない利用者があるが、薬を使用しないで職員と一緒に時間を過ごすようにしている。	

医療法人健救会グループホーム北大手

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	尊厳を大切にして、虐待の防止について、研修等で理解を深めている。発見した場合の対応についても周知徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対応が必要な方には制度の説明をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分に時間をとり、丁寧に説明を行い不明な事がない様に理解してもらっている。利用料の改定等があった場合は、個々に説明を行っている。入居後も相談を受けて、不安のないようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口について掲示しており、定期的にお知らせする事で周知を図っている。入居者からは日常生活の中で話を聞いている。家族からは来所時や電話で意見要望をお伺いしている。法人内に改善を検討する仕組みがある。	利用者は言葉や表情などで要望を伝えることが出来ている。家族の訪問については1週間に数回の家族や年数回の家族と様々であるが、訪問時には利用者の状況の説明を行い家族とのコミュニケーションを取るよう心掛けている。活動報告や行事予定、利用者の担当職員からのメッセージを載せた「グループホーム北大手通信」が毎月家族へ郵送され、意志疎通を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議において、意見要望を聞き反映させている。	経験年数が5年以上の職員や勤務年数が10年以上の職員が多くおり、全職員が利用者1名ずつを担当している。月1回行われる定例会議では業務連絡やカンファレンスなどが行われている。現在人事考課制度の導入を検討している。管理者による個人面談も行われており、今年度は全員が外部研修に参加した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則があり、法人内に社会保険労務士がおり労務管理が出来ている。健康診断を年2回実施している。限られたスペースであるが、休憩場所を確保している。法人として資格の取得、研修参加について支援している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員について、法人内外の研修に参加出来るように機会を確保している。月1回の会議で研修の報告をして、内容を共有している。		

医療法人健救会グループホーム北大手

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	長野県グループホーム連絡会に加盟しており、相互評価や報告会を通じて交流している。質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時から困っている事や要望を把握し、状況に応じて体験入居をしてもらい、求めている事を理解するようにしている。関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前後にこれまでの経緯や困っている事をよく聞くようにしている。来所時や電話で連絡を密にして、様子を伝えたり要望を聞き、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、体験入居時の状態に応じて、他の事業所のサービスも受けられるように話をし対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	それぞれの得意な事できる事を行いながら、生活してもらえようように、それぞれにあった対応、セッティングをしている。昔のならわしを教えてもらったりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の体調や生活の様子を来所時や通信でお伝えしている。行事に参加していただいたり、関係が途切れないようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所の方の来所がある。馴染みの人との関係が途切れないように、いつでも誰でも自由に面会していただける事をお知らせしている。本人家族から話を聞いて関係を把握している。	昔からの行事を大切にしている。どんど焼きで繭玉を焼いて食べたり、節分には豆を蒔き、暮れには職員と一緒に家族や親しい人に年賀状を書いて出している。知り合いの訪問もあり居室やリビングなどでお茶を飲み談笑している。外出することが難しくなり、行きつけであった美容師にホームへ来ていただいている利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握して、食堂の席を決めたり、生活がし易いよう、楽しく過ごせるように場面作りに配慮している。個別に話を聞いたり、何かあれば職員が間に入り調整している。		

医療法人健救会グループホーム北大手

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設、病院等に移る場合は情報提供を行っている。退居後も相談を受けたり、関係が続いている方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉や表情から思いや希望をくみ取っている。また家族関係者からも話を聞き意向を把握している。意思表示がはっきりしなくなってきた方は、以前の希望好みから判断している。	言葉で意思を伝えることができる利用者がほとんどであるが、職員は必ず話しかけ反応を見ながら対応している。口数の少ない利用者には「今日は静かじゃない？」などと他の利用者からも声がかかりお互いをフォローする姿も見られた。新規の利用者に体験入居をしていただくこともあり利用者が早期にホームの雰囲気に慣れるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用していたサービスがある方は、様子を聞き情報提供してもらっている。日々のコミュニケーションや家族関係者から話を聞き、経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申送りで一人ひとりの1日の様子を把握し、過ごし方に配慮をしている。それぞれの生活リズムにあった生活が出来るようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人家族と話し合いカンファレンスで意見を反映し、より良く過ごす事が出来るように介護計画を作成している。	全職員が利用者を担当している。カンファレンスの時は担当職員より細かい意見を聞き話し合いをし、計画作成担当者がケアプランを作成している。本人や家族の要望も聞き入れながら定期的な見直しに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	それぞれに体調、生活の様子を記録し、申送り等で情報を共有している。カンファレンスでケア内容を検討して、計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況希望に応じて、通院、外出(買い物等)外泊支援をしている。		

医療法人健救会グループホーム北大手

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会行事に参加したり、清明小学校と交流している。外出行事はボランティアの協力も得ている。庭の手入れ工作活動をボランティア団体園芸福祉グリーンディアの協力を得て行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	併設医療機関で定期的に受診、訪問診察を受けている。診療科目にない科については、状態に応じて職員、家族が付添い、情報提供し支援している。	同じ敷地内にある母体の病院が協力医となっている。利用者や家族の希望もあり協力医に変更することが多い。24時間、医師や同じ病院の看護師との連絡が可能で、早期に対応が出来る。利用者のそれぞれの状態に合わせて訪問診療を受けたり、職員付き添いで通院している。主治医と看護師の連携が取れているので必要時に受診ができ利用者や家族も安心している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設医療機関から看護師の訪問が定期的であり、バイタルチェック様子見てもらっている。体調に変化がある時は、主治医に繋いでもらっている。気付いた事を助言してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院に情報提供し、毎日職員が様子を見に行っている。退院時はサマリーをもらい、状態を把握し、退院後の生活がスムーズにいくようにしている。主治医と連携して速やかに退院が出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、本人、家族の意向を踏まえ、主治医と連携をとり、状態が変化しても安心して生活が出来るようにしている。段階に応じて、家族、主治医、職員で話をしながら支援している。	利用時に家族へ説明をしている。病院敷地内ということもあり、多くの家族は終末期をホームで過ごし最後は病院へという希望が多い。現在90歳以上の利用者数名が毎日ゆっくりとした日課に沿って穏やかに過ごしているが、家族、医師、看護師、職員間で早期の話し合いを行い方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命法の研修を定期的に受けている。24時間主治医と連絡がとれる体制がある。緊急時の対応マニュアルがある。病院内にAEDが設置されている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルがある。年2回避難訓練、消防設備点検をしている。併設施設からの応援体制がある。今年スプリンクラー、火災通報装置を設置した。	スプリンクラー、自動火災報知機、消火器等の機器が完備されている。年2回、隣接の病院と合同で避難訓練を行っている。運営推進会議に消防署員の参加をお願いし講評などを聞いている。夜間など、万が一の場合にも病院職員の応援が可能である。災害に対する備蓄は最低限の水などがあり、母体の隣接病院で多くのものを備蓄している。	

医療法人健救会グループホーム北大手

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりへの言葉かけは、誇りやプライバシーを損ねないようにしている。より一層注意を払い配慮して対応する。	長年勤務している職員が多く、利用者の生活歴を熟知しており、利用者の尊厳を損なわないように気を付けている。利用者によっては在宅時に周りから「ちゃん」で呼ばれていた方もいたが、ホームでは統一して敬意を込め「さん」付けで呼んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定が出来るように、本人の思いや希望を聞くようにしている。言葉で意思表示がしにくい方は、表情や反応から判断している。それぞれに合わせた声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、体調や希望に合わせて、それぞれのペースで生活が出来るように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	近所の理容店、訪問の理容師、馴染みの美容師の方に訪問してもらい、本人の希望によりカットしてもらっている。食堂に来る時、外出前は衣類等整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好みを把握し、それぞれの状態に合わせた食事形態にしている。旬の食材を取り入れたメニューにしている。一緒に準備後片付けをしている。	法人の管理栄養士が献立を作成している。3ヶ所のテーブルで職員も同じものを食べている。職員は見守り、声掛け、一部介助などを使い分け、利用者もゆっくりとしたペースで食べている。また、おかゆ、きざみ、とろみなどで一人ひとりに対応している。月の活動スケジュールに手作りおやつの日が何回もあり、利用者と職員と一緒に作り食べている。片付けや食器拭きなど、利用者が出来る範囲のお手伝いをお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が献立を作成している。それぞれの1日の食事量水分量を把握している。摂取が少ない方には、好みの食べやすい物やエンシュア、栄養補助食品を出す等支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれの状態に合わせて、声かけしたり、介助で口腔ケアをしている。		

医療法人健救会グループホーム北大手

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排泄パターンを把握し、身体機能に応じた介助をしている。状態に合わせてポータブルトイレ、移動パーを使用している。オムツ類も状態に合わせて適切な物を使用している。	トイレでの排泄を基本とし支援している。自立されている方もいるが利用者の状況に応じてリハビリパンツ、オムツなどを使い分けている。また、利用者の尊厳にも配慮し昼夜での対応を変えることもある。家族の経済的負担を考えリハビリパンツなどのセットも紹介している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で排便の有無を把握している。ラジオ体操をしたり、体を動かす機会をつくっている。野菜や乳製品を多く出している。状態に応じて下剤を処方してもらい、服用している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日の状態に合わせて、入浴順を考慮している。拒否がある時は、時間をずらしたり、タイミングを見て入浴してもらっている。	昼食後一段落したら入浴時間となる。自立の方も必ず職員の見守りを受け入浴している。車イスの方が浴槽に入る時は職員二人で介助している。シャワー浴の時は床暖房の他にファンヒーターを入れ万全を期している。入浴剤やゆず湯などの季節ならではのお風呂も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれ日中活動を行えるように支援し過ぎてもらっている。体調によって居室で休む時間もつくっている。眠剤服用している方もいるが、最小限にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者ごとに薬の説明書をファイルしている。錠剤が飲み込みにくい方は主治医、薬剤師に相談し、可能な限り粉砕してもらい、服用しやすいようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味活動が行えるように必要な物を用意している。外出したり、地域の行事にも希望や好みに応じて参加している。それぞれの力を活かして家事行ってもらっており、行った後は感謝の言葉を添えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望に合わせて、買い物、散歩、ドライブ等外出し易いように車椅子や車を使用している。家族と外出外泊する場合は、連絡表をお渡ししたり、口頭で介助方法や注意点を伝えている。	日常的に車イスを使用する方が半数強おり、外出時には更に増えることもある。冬の道路事情が悪い時は散歩はしないが、春になって天候の良い日など、その時々で時間を変えて散歩している。初詣、お花見、紫陽花、七夕まつり、真田まつりなど、デイケアの車を使い、外出ボランティアの協力もいただきながら出かけている。個別の買い物に出かけることもある。	

医療法人健救会グループホーム北大手

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれの状態に応じてお金を所持してもらうか検討している。預り金で必要な場合は使用出来るようにしている。預り金については入居時に説明し、家族の同意を得ている。出納帳と領収証で管理し、定期的にチェックしてもらうようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望によりいつでも電話したり、郵便物が出せるようにしている。電話は子機を使用して、居室でゆっくりと話が出来るようにしている。毎年職員の支援により年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室温、日差しは空調、照明、カーテンで調節し、居心地良く過ごせるようにしている。園芸福祉グリーンディアの協力により、庭の整備花の手入れをしてもらい、暖かみのある作品を作り飾っている。季節感を出している。	全館床暖房が施されホームは春のような暖かさであった。全館が同一の温度になっているので戸の開け閉めを気にすることなく生活が送れている。観葉植物、手芸作品、加湿器なども配置されている。食卓テーブルは3ヶ所に分けられ、事務室の前が玄関で、人の出入りが分かりやすい造りになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の席は入居者の相性を考慮して、気の合う方同士が過ごせるようにしている。共用空間は食堂のみであるが、思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前後に家族と話をし、使い慣れた物を持ち込んでもらっている。写真や大切にしている物を持ち込んでもらい、居心地良く過ごせるようにしている。	ドアの他に目隠し用の暖簾と表札が下げられている。8畳の広い居室にはベッドと洗面台がついている。テレビ、タンス、テーブル、いす等が自宅より持ち込まれている。ベッドを居室の中央に置いている方、壁際に置いて横にカラーボックスを寝かせテーブルのようにしている方など、個性的な居室作りがされている。家族の写真や手芸品などを飾っている利用者もあり、できるだけ自宅に居るような環境作りがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の身体状況の変化に応じて、居室の環境整備をしている。センサーマット使用している方もおり、安全に動き出せるようにしている。		